

令和2年度環境DNA分析による海域魚類調査結果概要

1 調査期間

- 水質常時監視調査採水に併せて、令和2年4月から令和3年2月に計6回6回（4月、6月、9月、10月、12月、2月）実施した。

2 調査地点

- 計22地点【内13地点は中下層（海面下6m）、底層（海底上1m）を含む】において実施した。

環境基準 類型	調査 地点	海域名	調査地点名	試料の採水深さ		
				表中層	中下層	底層
A	70	須磨港	西防波堤	○	—	—
	71	須磨海域	JR 須磨駅前	○	—	—
	72	須磨海域	海釣公園	○	○	○
	82	ポートアイランド南	沖合（3）	○	○	○
	74	垂水海域	垂水漁港	○	—	—
	75	舞子海域	舞子漁港	○	—	—
	83	垂水海域	沖合	○	○	○
B	62	ポートアイランド南	沖合（1）	○	○	○
	66	第一防波堤南	沖合	○	○	○
	67	荻藻南	神戸灯台南	○	—	—
	68	荻藻島南	沖合	○	○	○
	77	第4工区南	沖合（2）	○	○	○
	78	六甲アイランド南	観測塔	○	○	○
	81	六甲アイランド南	沖合（2）	○	○	○
C	56	第2工区南	六甲大橋	○	—	—
	59	葦合港	摩耶大橋	○	—	—
	61	神戸港東	神戸大橋	○	—	—
	65	六甲アイランド南	沖合（3）	○	○	○
	76	第4工区南	沖合（1）	○	○	○
	79	ポートアイランド東	第6防波堤北	○	○	○
	80	神戸港	中央	○	○	○
	64	兵庫運河	材木橋	○	—	—



3 調査結果

(1) 検出種数

- ・全地点合わせて計 2 綱 16 目 79 科 167 種の魚類が検出された。

(2) 高頻度検出種

- ・マイワシ、カタクチイワシ等の回遊魚、コノシロ、スズキ等の内湾・河口域の種、マダイ等の岩礁域の種などは、各水域類型で比較的高頻度で検出された。

(3) 環境基準水域類型別の検出種数

- ・環境基準水域類型別の検出種数については、調査範囲の西側（垂水海域～須磨海域）に位置する A 類型において検出種数が多く（142 種）、次いで B 類型（107 種）、C 類型（92 種）、兵庫運河（C 類型、50 種）の順となった。

(4) A 類型海域において検出された魚種

- ・明石海峡が近く、比較的潮流の影響を受けやすい水域である。回遊魚のブリ、マサバ、岩礁域を主な生息場所とするイサキ、スズメダイ、砂底に生息するイカナゴ、藻場に生息するホンベラ、砂泥底を主とするイシガレイ等、様々な生息場所でみられる種等 142 種が検出され、海産魚類の生息環境として多様な条件が備わっているものと推定された。

(5) B 類型海域において検出された魚種

- ・A 類型の海域に比べ検出種数は少ないが、全地点に共通して高頻度で検出されたカタクチイワシ、マイワシ、クロダイの他、回遊魚のブリ、マアジ、サワラ、内湾、河口域を好むメナダ、スジハゼ、岩礁域に生息するカサゴ、コクチフサカサゴ、キジハタ、砂泥底に生息するホウボウ、マゴチ、砂底でみられるオキヒイラギ等、107 種が検出された。

(6) C 類型海域において検出された魚種

- ・調査範囲の中では最も内湾性で、水質上も比較的汚濁傾向が強い水域であるが、高頻度検出種であるカタクチイワシ、ボラ、クロダイの他、回遊魚のサヨリ、マアジ、マサバ、内湾、河口域を好むスズキ、シマイサキ、岩礁域に生息するカサゴ、アイナメ、キチヌ、マダイ、砂泥底に多いハモ、ヒイラギ、マコガレイ等、92 種が検出された。

(7) 兵庫運河（C 類型）

- ・全調査地点の中で汽水域の性質が最も現れる地点である。内湾、河口域を好むボラ、スズキ、クロダイ、シマイサキ、通し回遊魚のニホンウナギ、淡水魚のオイカワが検出された他、浅い岩礁域・潮間帯にみられるムスジガジ、岩礁域、防波堤などに生息するタケノコメバル、また、回遊魚ではマイワシ、カタクチイワシ、サヨリ等、50 種が検出された。